みんなの文芸

引間豐作選　投稿数22句

門松の竹の切っ先凜として

（評）正月、門戸に一対の松を立てることは古くから行われていて、今日でも松竹を立てるのは普通だが、所により楢・椿・朴・栗・榊・樒などを用い、門木とも言う。根元に短い割木を寄せかけて足固めとする。門だけでなく、地方により家の内外の神前や庭・井戸・家の主柱などにも立てる。年神を門で祭るのであって、後に年神以外に門神があるように思われてきた。松は本来、正月に迎える神の依代の意味を持ち、長寿を願う意が加わっている。今では門松を飾る家も少なくなり、昔ながらの伝統行事を踏襲する人もまれである。

皆野　太幡真由美

復興の材木という初荷発つ　金沢　飯嶋満寿子

嫁ぎ来て三十年の雑煮かな　皆野　豊田喜美恵

猫火鉢話しの種に句座崩れ　三沢　新井　民子

薬飲むことも仕事や年始め　下日野沢　髙山　ユウ

水差せば首振る仕草シクラメン　国神　浅見　広行

賀辞述べて倶楽部の会費納めけり　皆野　引間　千鶴

句にあそぶ安らぎのあり冬の縁　三沢　長谷河ソノ

短か日やさまよい出でし道遠く　下日野沢　江野　鎰子

一人言白菜ほめる出来の良さ　皆野　関根　助市

自動車の風にまかれる枯落葉　下日野沢　引間富美子

寒天を支へて高し大欅　皆野　大沼シヅ子

人数分鯛焼き買うて帰りけり　皆野　市川　岳樹

中田久惠選　投稿数19首

慣れぬ筆持て余しつつ小三の孫は「けやき」と太く書き上ぐ

（評）日本の年始めの行事のひとつである書初を、お孫さんが一生懸命書き、お祖母様が結句に『「けやき」と太く書き上ぐ』と表現し、お正月を寿ぎ孫の成長を喜びまた慈愛溢れるお心でお詠みになられた、ご立派な短歌で非常に感動した秀歌であります。因みに「けやき」は埼玉県の県木でもあります。豊田さん独特の鼓動を感じる歌です。愛子さん背の君との幸が何時迄も何時迄もと祈っています。

皆野　引間　万亀

寄り添いて夫と二人の初詣合わす両手に安堵感密つ　皆野　豊田喜美恵

老いし身も気迫前向き貫きて貴重なひと日重ね生きたし　皆野　新井　愛子

暖かき絆一語にひびきあり新春に思う被災者は如何にと　三沢　新井　叶子

鶯の掠れ声聴く藪の径春の予感と心ほぐるる　三沢　新井　民子

娘より趣味の糧にと戴きし絵手紙画材に心温まる　下日野沢　浅見　豊子

旋盤に初めて触れし教え子が還暦となりの年賀が届く　皆野　市川　岳樹

物忘れを注意する子の有難しと娘の言うままに医師の門訪う　三沢　長谷河ソノ

遺影の夫と対座し初春の夢分かち合う言葉交わせる　皆野　根岸　詩子

老いたりと炬燵にこもるうたた寝に愛しき人を夢に見るなり　皆野　関根　助市

中国の意図不明なる乱入や尖閣の海に春はいつ来る　三沢　長谷河光久

人知れず人死ぬるのは寂しかりこの国の今日老いは悲しき　三沢　鈴木　貞恵

崖に建つ我家の冬の厳しさに四季の中より冬除きたし　皆野　加藤マリ子

独学の焼菓子の香家に満ち帰省の孫の靴音を待つ　皆野　佐藤　敏子

帰省した兄にテレビを占拠され僕は二階でワンセグ覗く　皆野　打木　昭広

※1月号 短歌　眞下杏子さんの作品【誤】開戦・知らぬ【正】開戦日・知らぬ　お詫びして訂正します。

俳句・短歌を募集

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して総務課へお寄せください。

8日必着

1人1句、1首に限ります。

1歳のお誕生日おめでとう

蒼羽くん
親鼻区
志村　武史さん
めぐみさん

いつも笑顔の蒼くん。
お姉ちゃんと仲良く元気に
育ってね。

洸生くん
駒形区
田村　栄二さん
美由紀さん

生まれてきてくれて、
ありがとう。
ずっと、待っていたんだよ。

公聖くん
上の台区
大前　秀和さん
知美さん

いつもマイペースな
こうちゃん☆
お兄ちゃんと仲良く遊んでね！

花桜ちゃん
中大浜区
関根　孝行さん
夏江さん

中大浜に生まれて元気に成長中！
これからもよろしくお願いします。

ゆいねちゃん
原区
中村　譲士さん
たえさん

元気で優しい子に
成長してね♡

陸翔くん
中三沢区
河村　竜希さん
優香梨さん

元気いっぱい遊んでね。

※満1歳の赤ちゃんを募集します。3月号の締め切りは、2月10日㈰まで。ホームページからも応募できます。